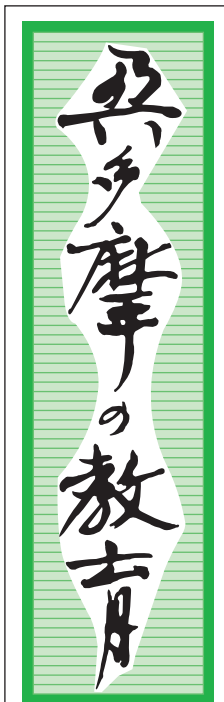




1月13日に文化会館にて、新成人対象者26名のうち、24名が出席し、成人の日の式典が行われました。式典、懇親会と盛大に行われました。

ご成人  
おめでとーございます



第219号  
発行  
奥多摩町教育委員会

令和2年3月1日現在

児童数	141名
生徒数	75名
教職員数	45名



指導を受ける子どもたち

1月24日から25日に新潟県湯沢高原スキー場にて、小学生スキー教室を行いました。古里小学校9名、氷川小学校11名の計20名の参加となりました。講師の方の指導もわかりやすく、充実した小学生スキー教室となりました。

町小学生スキー教室に  
行ってきました

奥多摩中学校2年生  
岩原移動教室

1月15日から17日まで、新潟県湯沢町の岩原スキー場で移動教室を行いました。1日目の朝、

まだ雪の装いが想像できない奥多摩を出発し、新潟に向かいました。長い関越トンネルを抜けると、それまでとは全く違う雪景色、そしてみんなの驚きの声という例年のパターンを期待していたのですが、記録的な暖冬の影響で雪が・・・。

みぞれ交じりの雪の舞う中、インストラクターの方々が登場しました。春のようなゲレンデコンディションではありませんが、時々差す暖かな日差しのもと、子どもたちはインストラクターの指示をしっかりと聞いて、レベルにあった講習をこなしていきます。スキーというスポーツの楽しさを雄大な大自然の中で体感できたようでした。

夕食の後、湯沢町観光協会の方を講師として、湯沢町の歴史や町の活性化に向けた取り組みなどについて、興味深いお話を

お聞きしました。3年の協働の時間のメインテーマ「奥多摩イノベーション」に向けて大変参考になる内容でした。

2日目。この日は前夜に20cmほどの降雪があり、とても良いコンディションで、みんなで協力し励まし合いながら協働してスキーの技術を磨きました。午後には、初心者もかなり滑れるようになり、子どもたちの柔軟な学習能力をうかがうことができました。一人ひとりの上達ぶりに、インストラクターの先生方も驚くほどでした。そして、最終日、「まだ帰りたくない。」といいながらゲレンデのあちこちで、思い思いのシユプールを描く子どもたちの姿がありました。やっぱり、スキーは楽しい！

【学年主任 星野 靖】



### 奥多摩中学校研究発表会

「全員支援教育の考えに基づき  
よりよい指導の在り方  
〜教員の意識と指導実践〜」

昨年度より、奥多摩町研究指  
定校として、2年間にわたり本  
校の教育目標のベースにある  
「全員支援教育」を推進してい  
くための研究を行ってきました。  
その結果を2月12日に、大勢の  
ご来校いただいた皆様の前で公  
開発表をすることができました。  
研究を進めた結果、生徒への  
情報伝達等において、視覚情報  
をより効果的に活用しようとす  
る意識が教員全体で高まってき  
たこと、生徒の良いところを積  
極的に認めていこうとする方向  
に評価の視点がシフトしてきた  
ことなどが、教員の意識変容と  
いう点で明らかになりました。

そうしたことが、生徒が急な予  
定変更等に柔軟に対応できるよ  
うになったことや、生徒同士の  
コミュニケーション能力の向上  
にもつながりました。

また、3つの分科会に分かれ  
た研究においても、困り感を効  
果的に把握するための工夫や相  
互支援を生かした授業の展開、  
別室指導への対応など、教科等  
の特性に配慮した研究を深める  
ことができました。（＊詳細に  
ついては、研究報告書をご覧く  
ださい）

「やりたい研究をする」「見栄え  
の良い内容を求めない」を心に  
研究を進めてきました。これか  
ら、小規模校ならではの良さ  
を十分生かしながら、研究成果  
を踏まえた実践を継続的に行っ  
ていきたいと考えています。

【研究主任 河邊 典之】

### 学校式典のご案内

#### 卒業式

古里小学校 3月25日(水) 午前9時30分  
氷川小学校 3月25日(水) 午前9時45分  
奥多摩中学校 3月19日(木) 午前9時30分

#### 入学式

古里小学校 4月6日(月) 午前10時30分  
氷川小学校 4月6日(月) 午前10時00分  
奥多摩中学校 4月9日(木) 午前9時30分

### 氷川小学校研究発表会

「自分で考え表現する児童の育成」  
プログラミング的思考を育む  
授業を通して」

東京都教育委員会プログラミ  
ング教育推進校として、2年間  
にわたり、研究を進めてまいり  
ました。プログラミング教育の  
理解を深めるために、授業実践  
を重ねてきました。その実践を  
令和2年度の教育活動に活用す  
るために、年間指導計画の作成  
に取り組みました。提携企業や  
奥多摩町教育委員会には、たく  
さんのご教授やご支援をいただ  
きました。教材の使い方や授業  
の進め方等、実践的な助言や指  
導をしていただいたおかげで、  
研究前に比べると教員個々の理  
解が格段に深まりました。学習  
指導要領改訂の目玉の1つであ  
るプログラミング教育の先行研  
究ができたことは、氷川小学校  
の大きな財産となりました。  
2年間の研究の経過や成果・  
課題の発表を、1月24日に行う  
ことができました。1年生は、  
生活科の単元で、冬遊びをどの  
ような順番で行えばより良く遊  
びができるか、計画的に考えて  
いく内容でした。「順次処理」「適

切な順序を考える」ことで、プ  
ログラミング的思考の育成を図  
ることができました。4・5・  
6年生は、タブレット端末機器  
を使ったプログラムの授業を行  
いました。「教科のねらいをはず  
ことなく、アンプログラドとの融  
合ができた授業だった!」「まず  
はしっかりとワークシートや設  
計図に書かせて、一人ひとりの  
考えを明確にさせた後に、タブ  
レットを使ったことが素晴らしい!  
!」「思考ツールを使い考えを  
可視化させることが素晴らしい。  
子どもたちの論理的思考が育ま  
れる手法だった!」など、講師  
の先生を中心に、たくさんの方  
の先生の言葉をいただきました。  
来年度以降もプログラミング  
教育推進校として先導できるよ  
う、学びを深めていくことを決  
意するにいたしました。

【研究主任 稲葉 義愛】

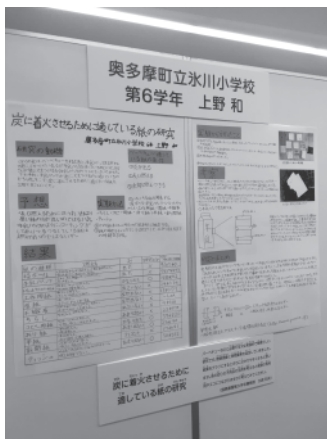


### 東京都小学生科学展

「炭に着火させるために  
適している紙の研究」

氷川小学校6年生 上野 和

江東区青海の日本科学未来館にて、東京都小学生科学展が行われました。東京都の各学校の代表者が、1月10日から13日に分かれて研究の成果を発表しました。氷川小学校の上野和君が奥多摩町の小学生の代表として10日に行つてまいりました。



家族でバーベキューをした時ふとしたことに疑問をもつたことが本研究のきっかけでした。

よくある生活の中に潜む何気ないことでも、疑問をもち調べ解決することは、学びの原点や科学の奥の深さを感じさせます。

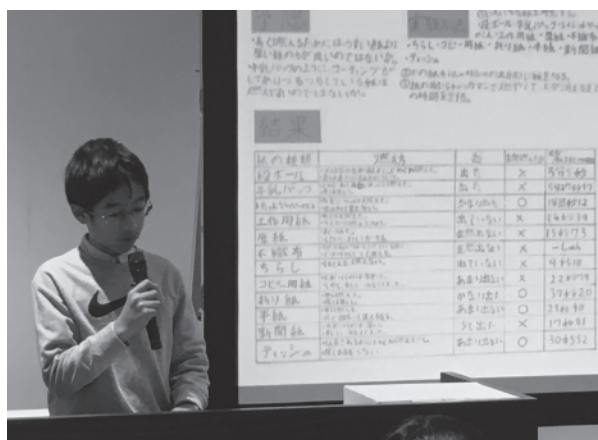
原稿づくりや模造紙への書き込み等、長きにわたり先生やご

家族にアドバイスを受け、協働的に取り組みました。上野君にとつては苦勞を重ねましたが、とても大きな経験となりました。

本番の前には、氷川小学校の5・6年生の前で発表会をしました。友達から感想や質問をたくさん寄せられて、テキパキとわかりやすく答えていました。

本番当日も大勢のお客さんの前で、緊張感に包まれていましたが、持ち前の度胸の良さと練習の成果や応援のおかげで、普段通りの発表をすることができました。

【6年生担任 稲葉 義愛】



### 子どもからの 人権メッセージ発表会

昨年12月21日に青梅市役所で開催された発表会で、古里小学校5年生の村田英大君が人権メッセージを発表しました。その内容を紹介します。



古里小学校5年生 村田 英大君

【言葉の暴力から  
はじまる差別】

ある日、ぼくは友達が悪口を言われているのを見ました。ぼくは、「いけないな」と思って、「やめろよ。」と言いました。でもそれが、だんだんエスカレーターしていききました。最初は、「バカ。」だけだったのが、「くそ。」とか「死ぬ。」とか、とてもいやな言葉になってしまいました。ときには、「弱いくせに。」という差別に近い言葉も聞こえてきました。

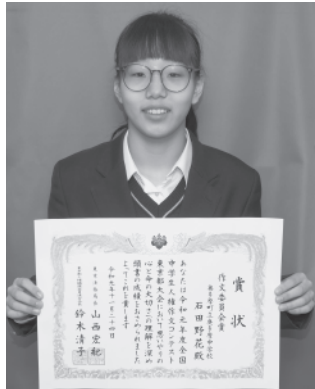
ぼくは、最初は差別という意味が分からなかったのですが、お母さんに聞いてみました。お母さんは「自分はえらくて、相手はえらくないということだよ。」と教えてくれました。そのとき、人に差をつけることだと分かりました。ぼくはとてもいやな気持ちになりました。ぼくは、ものを作るのが好きです。がんばって作った作品に対して、ほかの人に「おれはうまい。おまえは下手すぎる。」と言われたら、とても悲しいです。そう考えると、とてつもなくひどいことだと感じました。

けれど、ぼくも悪い言葉をつかってしまうことがあります。そのとき、ぼくは思いました。自分のことをたなにあげてしまっている。その人が良く見えると、くやしくて、欠点をさがしてしまふことがあります。同じ経験がある人もいるのではないのでしょうか。きっとそれは、相手との差がついてしまい、こわいからだと思えます。でも、こわいからと言っていやなことをしてはいけません。人をうらやむのではなく、自分がよいと

思うことをすれば、きっと気持ちがいいはず。ぼくは、悪い言葉は、絶対につかいません。人がいやな気持ちにならないからです。言葉の暴力が減っていけば、もっと幸せにくらしていけると、ぼくは思います。

### 中学生人権作文

「全国中学生人権作文コンテスト」で奥多摩中学校3年生の石田野花さんが、作文委員会賞を受賞しましたので紹介します。



奥多摩中学校3年生 石田 野花さん

#### 【個人情報流失をとめるために】

私はある日、インターネット上で好きなミュージシャンの高校時代の写真を見つけました。

それは卒業アルバムの写真のようでした。そのミュージシャンのことがもっと知ることができるかもしれないと思い、今度は「(ミュージシャンの名前)卒業」と入力してみました。すると「隠していた」という文字が目につきました。「ん？」少し気になり、さらにスクロールしてみると「流失」「発掘」「暴露」という文字が出てきます。ここまでそろえば私にでも分かりました。「高校の同級生に勝手にばらまかれたのか。」そのミュージシャンだけでなく、他の芸能人のアルバムの写真も十枚、二十枚と次々に出て来ます。中には自身で公開した人もいます。でも、バラされたくなかった人もいます。私はこんなのはおかしいと思いました。少し前に習ったばかりだったので「表現の自由」などの権利については知っていました。それでも芸能人にも権利があるはず。一度開いて確かめてみました。やはり、「プライバシーを守る権利」として書き添えてあります。「プライバシーを守る権利」と

は私生活上の情報をみだりに公開されない権利です。プライバシー情報は三つあります。①私生活上の事柄または私生活上の事実と受け入れられるおそれのある事柄。②一般人の感覚では公開を欲しないであろうと考えられる事柄。③一般人の人々に公開されておらず、公開されることで本人が不快・不安の念を覚えること。の三つです。私が好きなミュージシャンのように、芸能人のプライバシー情報はみんなが注目するでしょう。だから、注目されたい人や雑誌をもっと売りたい人が情報を公開してしまうのだと思います。しかし、そんなことをしても良いのでしょうか。その答えは幼稚園の子にでも分かるはずです。「自分がされて嫌な事は他の人にしてはいけません。」と幼稚園から教わっているはずなのに、それを教える立場の大人達が守れていません。個人で注意しなければいけないと思います。しかし、個人の自分への制限にも限界があります。いわゆる自分の中の悪魔が勝ってしま

うこともあるでしょう。そこで私は法律の力が重要だと考えます。今、個人情報危険にさらされているのはSNS上が多いと思います。しかし、今の日本の法律はSNSよりも企業に重点を置いてるように思えます。確かに何百もの個人情報を取り扱っている企業が個人情報の取り扱いを誤れば大変なことになります。でも企業は信用を失い、顧客が減るなどのリスクがあるため、個人情報を厳重に管理しているはず。一方SNSは一般の人が手軽に使えます。だからつい軽い気持ちで他人の個人情報を投稿してしまったり、個人情報だと思わずに情報を教えてしまったりするのだと思います。そのようなことを国が、法律が減らしていかなければ個人情報に関する犯罪は増えていく一方です。

SNSは個人情報が投稿された後からではもうどうすることもできません。投稿する前に思いとどまる大きな理由を国が作らなければいけないと思います。

### 放課後英語教室

学習指導要領が改訂され、来年度から小学校・中学校・学年は外国語活動、小学校・高学年は外国語科の学習が本格実施となります。奥多摩町では英語教育充実の一環として、「誰もが学びを享受できる場をつくりたい」という方針のもと、一昨年度から小学生・全学年を対象に放課後英語教室を開催しています。学校の授業が終わると英語ルームに直行して、英語教室が始まります。外国の絵本を読んだり、歌を歌ったりして、楽しみながら英語のリズムや語句に触れています。

#### 指導者紹介 酒井理恵先生

幼児・小学生を対象に長年にわたり町の英語教室の講師を務めていた酒井先生をお招きしています。子どもたちの英語力向上のために、教材の開発や指導内容の工夫など、多大な支援をいただいております。



酒井先生

酒井先生の海外生活の経験に基づき、目と耳から実用的で生きた英語に親しみ、言葉の背景にある文化の多様性も知ることができる大変貴重な機会です。また、オーストラリアから来日している外国語指導助手も一緒に活動しています。

年度が変わりましたら、改めて英語教室への申込手続きを行いますので、多くの子どもたちのご参加をお待ちしています。



身を乗り出して学ぶ子どもたち

### 給食センターからのお知らせ

渡邊梨菜栄養士が2月より産育休業に入り、その産育休業代替職員として原島祐衣栄養士が着任されました。

## ＊教育相談室＊

### 【愚痴をこぼす】

室長 石上 和伸

教育相談室では、養育や教育に関することを中心に幅広く相談をお受けしています。

『相談』と言われると私たちはとかく「大切なことを」とか「まとまった言葉で」などと、身構えてしまいがちです。けれど実際に私たちが日々出会う不安やイライラは漠然としていてまとまった言葉にはなりにくいものです。だから『相談』はできないけれど、まとまらない『愚痴』はこぼれます。

帰って来た家族が、ためていた愚痴を爆発させる。「聞いてよ。今日はね全く…」相手がどんなに忙しかろうがお構いなし。さらにまた一人。愚痴が愚痴を呼び、お互いが譲らぬセッションが延々と続く…恐縮ですがこれは我が家の例です。ついつっかりと建設的な言葉を口にして後悔をする時もあります。解決を期待してはいないのですね。

辞書で『愚痴』を調べると、

「言ってもしかたがないことを言つて嘆くこと」その他、愚か、無理解、妄想、混乱、鈍さ…悲観的な見方の増幅…一つも良いことは書いてありません。でもなぜでしょう。確かに内容はネガティブですが、語り続けるエネルギー。語った後の爽快な表情。そんな様子に、不安やイライラも言葉で表すことで前向きな力や、コントロールできる力になっていくのではないだろうかと感じます。

こう考えると、形のはつきりしない感情を言葉にしていくな『愚痴』も、悪いものではないような気がしてきます。もっとも「話す」と「聞く」は相手にも相応の負担のある共同の作業ですので、時と場合と相手は選んだ方がいいでしょう。

もし、愚痴の相手がいない時は、どうぞ「愚痴をこぼしに来ました。」と教育相談室へいらしてください。遠慮は不要です。聞くことだけしかできないかも知れませんが、一緒に言葉の奥にある「明日」を探すことができますと思っております。

**郷土奥多摩(文化財)**

**その16 川野の車人形**

東京都指定無形文化財・昭和27年  
文化財保護審議会委員 福島喜彦

小河内地区は、民俗芸能の宝庫と言われ、現在に伝わるものに車人形、鹿島踊り、獅子舞と現在行われていませんが花神楽、よいさか踊りなどがあります。

今回は、川野の車人形です。始めに車人形の「かしら」ですが、宝暦2年(1752年)から天明、文政年間にかけて造られた31本があり、その中には、文化財彫刻物で国宝級と言われる「かしら」もあります。現在一部が、水と緑のふれあい館に展示されています。



かしら

車人形は、一つの人形を三人がかりで操っていたのを、ロク口車に乗って一人で操るようにしたものです。そして、車仕掛けの箱に黒衣で腰を掛け、手足の指を巧みに使い浄瑠璃の語り

に合わせて人形を操るもので江戸末期から明治20年頃までは各地で行われていました。しかし、現在は奥多摩周辺では、川野の他八王子と飯能で行われているだけです。

川野の車人形は、天保のころ現在の飯能市の西川古柳が三人遣いから一人遣いの車人形を創設し、その後明治18年小宮村(現在あきる野市)の太夫、木住野清兵から説教浄瑠璃・人形一式と共に川野に伝えられました。現在、車人形の台本となる浄瑠璃本は、30段ほどあります。車人形の保存は、かつては、小学校卒業時から35歳までの男子が車人形、獅子舞の管理保存にあたっていました。昭和6年に始まった小河内ダム建設で



ごしゅうぎさんほんそう 御祝儀三番史

住民が四散し、例年3月15日の火伏せ祭りで行っていた車人形が定時にできず、時に有志が集まって上演をする程度で保存が困難となりました。しかし、昭和27年に東京都が小河内地域の郷土芸能を調査し、無形民俗文化財として指定し、その保存を地元に残すことになったのを機に湖畔に残る30世帯余りで保存会を組織してその管理運営にあたりました。

その後、過疎化、少子高齢化で継承の危機が訪れました。しかし、継承する次の世代を育てようと小河内小の先生方が「総合的な学習の時間」で車人形を教材として取り上げて取り組んだそうです。さらに小河内小の閉校で消えそうになりましたが、統合先の氷川小やPTA小河内地域会の協力と賛同を得て、平成16年に「川野車人形子ども教室」を立ち上げました。

現在は、川野車人形保存会と川野車人形子ども教室(高校生3名、中学生1名)が管理運営にあたっていますが、最近の10年余りは、すべて子ども教室の生徒が人形遣いを勤めているそ

うです。さらに、誕生から15年目となった平成27年にかつて子ども人形遣いを学んだ卒業生が、車人形の舞台に戻ってきました。大学生になった若者たちが保存会に入会し、「若衆組(わけえしぐみ)」を立ち上げ、同時に子ども教室の「父母の会」の皆さんが、説経節や三味線の練習を始め車人形の灯火が繋がったそうです。平成29年には、長野県、飯田人形劇フェスタに招待され公演しました。



甚兵衛渡し場の段

結びに、川野地域や関係者の皆様が、困難を克服してすばらしい車人形を継承していただいていることに感銘を受けた次第です。毎年3月に川野の生活館、水と緑のふれあい館で公演しますので是非、ご鑑賞下さい。